

## 嗜み 憎悪・争い和らげる心

「ご趣味は？」  
 「お茶を少々嗜む程度で……」  
 なんとも日本人らしい会話だ。  
 人生をどう生きるか、社会の中  
 で自分をどのように位置づけるか  
 は永遠の問いだ。神や王が外から  
 規律を課す社会もある。自分の能  
 力や立場を外に効果的にアピール  
 し、他との競争の中で自己の地位  
 の確立を目指す社会もある。  
 日本では、人の心や社会の流れ  
 を慮りながら、力を内に向けて  
 自らを磨くことで調和を求めてき  
 た。その心がけを嗜みという。  
 和歌、能、茶道や柔道など、  
 文武の芸を極めるための努力  
 を続けることを通じて、高い  
 精神性やつつしみ、他へのい  
 たわりを身につけることを目

近藤誠一



### もったいない 語辞典

指す。そして他人の嗜みを評価す  
 る素養を持つことも大切だ。  
 嗜みは、身分の貴賤や男女を問  
 わない。雨宿りに来た太田道灌に  
 「山吹」の一枝を差し出した貧農  
 の娘の逸話（常山紀談）や、敗走  
 する敵の武将に対して矢をつがえ  
 つつ和歌の下の句を詠むと、相手  
 が馬を止めて直ちに上の句を詠み  
 返したという逸話（古今著聞集）  
 など、貧農の娘にも、猛き武者に  
 も和歌の嗜みがあったことを歴史  
 の文献は教えてくれる。  
 グローバル競争が激化し、  
 憎しみや諍いが進む世界を  
 和らげるのは、自己の正当性  
 の主張ではなく、自らを律す  
 る嗜みという日本の心ではな  
 いだろうか。（元文化庁長官）